

10. 滲出型加齢黄斑変性に対する aflibercept 硝子体注射の脈絡膜への影響

○岡本全弘, 山下真理子, 緒方奈保子
奈良県立医科大学

【目的】 滲出型加齢黄斑変性(AMD)に対する aflibercept 硝子体注射(IVA)の脈絡膜への影響を検討する。

【対象と方法】 奈良医大眼科において AMD 患者 37 名 37 眼(男性 27 名, 女性 10 名, 年齢 74.7 ± 8.6 歳)を対象とし, IVA を毎月 1 回, 3 か月連続で施行。施行前, 3 回施行後 1 か月の同じ時間帯に, 中心窩領域の網膜厚(CRT), 脈絡膜厚(CCT)および脈絡膜血流(CBF)を測定した。同時に視力(logMAR), 眼圧, 血圧, 脈拍, 眼灌流圧を測定した。CRT は Heidelberg Spectralis OCT を用い, CCT は enhanced depth imaging の手法で測定した。CBF は, Laser Speckle Flowgraphy を用い, 相対的血流速の指標である mean blur rate(MBR)を測定し変化率を求めた。

【結果】 投与前から投与後 1 か月で視力は 0.48 ± 0.32 から 0.32 ± 0.34 ($P < 0.01$)に改善, CRT (μm)は 405.3 ± 176.1 から 261.8 ± 98.5 ($P < 0.01$)に減少, CCT は 239.4 ± 107.4 から 206.2 ± 97.3 ($P < 0.01$)に減少, CBF は, $85.8 \pm 8.1\%$ ($P < 0.05$)となった。

【結論】 AMD に対する IVA 投与は有効であり, 毎月連続 3 回投与後 1 か月で脈絡膜厚が減少するとともに脈絡膜血流も減少していた。

11. 加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト fixed regimen 治療中の視力悪化

○畑 匡侑¹⁾, 大石 明生¹⁾, 山城 健児²⁾, 田村 寛¹⁾, 中西秀雄¹⁾, 上田奈央子¹⁾, 赤木由美子²⁾, 黒田能匡¹⁾, 高橋綾子¹⁾, 辻川明孝³⁾, 大音壮太郎¹⁾

1) 京都大学眼科学教室
2) 大津赤十字病院(大津市)
3) 香川大学

【目的】 加齢黄斑変性(AMD)に対するアフリベルセプト治療(IVA)中の視力低下症例の検討。

【方法】 2012 年 11 月～2014 年 10 月に, IVA 定期投与を開始した 196 例 196 眼について, 1 年間の治療期間中に治療前視力から 2 段階以上の視力低下を認めた症例の検討を行った。視力低下の有無と, ベースライン因子〔年齢, 最大病変径, 初診時の中心窩網膜厚, 脈絡膜厚, 黄斑部網膜下出血(SRH), 色素上皮剥離(PED)最大高〕との関連を検討した。

【結果】 視力低下を 16 眼に認め, 主な原因は SRH 出現/増加(4 眼), 網膜色素上皮裂孔(3 眼), 線維性瘢痕形成(3 眼)などであった。視力低下は, 初診時の黄斑部 SRH の有無と PED 最大高と関連した。

【結論】 IVA 中に, 8.2%で視力低下を認め, 術前の SRH と PED 高に影響を受ける可能性がある。

12. 1 年間のアフリベルセプト療法による滲出型加齢黄斑変性病変の画像変化

○山岸哲哉, 寺尾信宏, 加藤雄人, 外園千恵
京都府立医科大学眼科

【目的】 加齢黄斑変性(AMD)に対する 1 年間のアフリベルセプト療法において, 視力低下例, 頻回治療例の画像所見を検討する。

【方法】 未治療 AMD 73 眼。1 年治療後 5 文字以上視力低下した症例, 頻回治療を要した症例の画像所見を治療開始前と比較した。

【結果】 5 文字以上視力低下をきたした 5 例中, 全例で ellipsoid zone の不整を認めた。治療開始前には嚢胞様黄斑浮腫(CME)を 3 例で, フィブリン析出を 3 例で認めた。年間 9 回以上治療を要